

平成 29 年度事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会

平成 29 年度 事業報告書

平成29年度事業報告

ICT情報通信産業の変革は、技術の進展と共に劇的なスピードで進んでいます。そうした中で総務省では、「ICTによるイノベーションで経済成長と国際貢献」をミッションとした「スマート・ジャパンICT戦略」を取りまとめ発表されました。2020年までに「知識情報立国」の実現を目指し、地球的な課題、我が国の課題、相手国の課題をICTにより「三位一体」解決し、グローバルな視点で「スピード」と「実践」で取り組む内容です。その1つの目標として、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでの世界最先端ICT環境の実現です。このICT戦略に基づき、モバイル・クラウド・ビッグデータ・IoT等ICTの戦略的活用が求められているところです。

私ども通信建設業界としては、そうした活動を支えるため、これまで培ってきた情報通信建設分野での総合力発揮により、社会生活や経済活動に不可欠な情報通信インフラの構築・整備・保守に取り組むことが重要です。

このような環境下において、協会並びに会員会社としては基軸である「技術力」「安全」「信頼」の観点でさらに競争力を強化し、自ら新しいビジネスチャンスを活かしていく必要があります。

ICTを支える情報通信分野において、固定系ではFTTH基盤の全国展開がほぼ完了し、モバイル系はLTE移行の本格化に伴い高速化競争も激しさを増すことで、日本のブロードバンド普及は世界のトップレベルになっています。一方で、オープンクラウド、ビッグデータなどの新たなコンセプトの下で、無線と光ファイバ系インフラがベストミックスするような利活用により、ホームICTなどのユーザーサービス分野や、社会生活を豊かにする多種多様なアプリケーション分野の充実・拡大に期待が高まっています。これからは様々なニーズに応えられるよう通信建設業者としてビジネススタイルを変革していくことが、新たなビジネスチャンスを創出することになります。通信インフラの建設・開通工事という枠組みのみならず、設計から保守・運用まで仕事の幅を上げ、更にはオフィスやお客様宅内のICT化をサポートするところまで一元的にサービスを提供できるよう技術力を高めて、通信事業者様へご提案していくフルアウトソーシングというスタイルへの変革です。そのための技術者育成への取り組みも含め、ビジネスチャンスを活かせるよう取り組んでいます。

このような活動を展開するにあたっての競争力の柱は、従来から取り組んでいる「施工の安全確保」や「品質向上、エンジニアリング力の強化」と「業務の効率化・生産性向上」、そして「人材育成」への取り組みが引き続き重要です。

安全の取り組みは、いかなる状況においても最優先すべき事項として取り組んでいますが、事故発生件数は必ずしも減少したとは言えず、基本動作の欠如から高所からの転落等の重大事故につながっている事例が発生しています。基本動作を徹底するという協会統一施策を掲げ、人身事故・設備事故を撲滅し、お客様に「安心・信頼」していただけるよう、会員会社と協会が連携して安全・品質向上に継続的に取り組んでいます。

具体的には、協会理事等による安全パトロールの強化並びに会員各社等での「安全の鉄則」に則った作業の徹底と安全作業手順書の更なる充実を進めています。安全は通信建設業界の要であり、その取組みに終わりはありません。情報通信エンジニアリングのプロ集団としての更なる安全と施工技術並びに品質の向上を目指して参ります。

エンジニアリング力の強化の主要な取組みは、時代に即応した業界全体での技術力向上を目的として、毎年光通信工事技能競技会を開催しています。昨年7月に「第12回光通信工事技能競技会」を京都パルスプラザにおいて開催し、約1,500人の来場者を集め盛大な競技会になりました。高度化するICT技術への対応及び工物品質、生産性の向上を図る一方、時代の要請に適合した複合技術に対する実践的な総合エンジニアリング力の養成を目的として光技術とメタル技術の複合競技、テナントビル構内・宅内設備でのビジネスユーザ開通を模擬した競技種目を実施しました。

今年の光通信工事技能競技会は、7月5日にパシフィコ横浜で開催を予定しています。

また、昨年11月にはアクセス設備設計・積算におけるスキル向上と品質向上を目的として、東西エリア合同での「第8回アクセスデザインコンテスト」をNTT東日本中央研修センタで開催しました。設計段階における安全性確保に配慮した付加価値提案を含めた課題を設定することで、安全意識の向上にも効果を上げると共に、各社の創意工夫の共有化や切磋琢磨の場としても効果を上げました。

その他、日常業務を通じた創意工夫や改善をVE/VA活動として活性化し、水平展開するため、昨年も「西日本ICTフォーラム」、「つくばフォーラム」への参加・展示を行いました。

また、業務プロセスの見直し、安全施工への取り組みや工具・工法などの改善提案の優良事例を共有化し、更なる改善につなげるSKY（創造・改善・躍進）大会等を全国各地域等で開催しました。

事業を支える人材の育成についても、会員各社と協会が連携して取り組みました。協会の東西研修センタでは、時代の進展にあわせた新サービス・新技術の研修への反映、保守業務の拡大ならびに過去からの設備維持に必要なレガシー技術継承に対応した研修の充実等、通信建設業界の総合力向上に向けたラインアップの整備を図りました。安全関連研修については、人身事故・設備事故の撲滅に資するべく、体感・演習を極力採り入れるとともに、施工者から管理指導層向けまで多様な研修を用意し、安全への気づき、指導力の向上と基本動作の遵守を再認識する機会として役立つようにしました。また、お客様から信頼され時代の変化に即応したワンストップサービスの提供ができるよう、工事担任者・監理技術者や電気工事士等の資格取得、多彩なIT系の研修も幅広く実施しました。

技術の進展がめざましく、社会・経済情勢が急激に変化する中で、会員各社と協会は、工事の安全はもとより、施工技術の向上や施工方法の改善・改良に積極的に取り組みながら、新たなビジネススタイルへの変革にチャレンジし、通信事業者様のパートナーとして信頼され続けるように努めています。

平成 29 年度 決算報告書

貸借対照表
平成30年3月31日現在

(全国)

(単位：円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|-------------------|---------------|---------------|--------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金・預金 | 149,974,592 | 145,742,647 | 4,231,945 |
| 未 収 金 | 6,026,034 | 10,088,818 | ▲ 4,062,784 |
| その他流動資産 | 9,206,906 | 5,754,266 | 3,452,640 |
| 流動資産合計 | 165,207,532 | 161,585,731 | 3,621,801 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 預 金 (定期預金) | 3,281,765 | 3,281,765 | 0 |
| 基本財産合計 | 3,281,765 | 3,281,765 | 0 |
| (2) 特定資産 | | | |
| 退職給付引当資産 | 11,446,900 | 17,749,875 | ▲ 6,302,975 |
| 建物修繕引当資産 | 187,161,800 | 187,161,800 | 0 |
| 研修設備引当資産 | 156,409,182 | 125,264,000 | 31,145,182 |
| 設備維持引当資産 | 67,642,771 | 67,642,771 | 0 |
| 特定資産合計 | 422,660,653 | 397,818,446 | 24,842,207 |
| (3) その他の固定資産 | | | |
| 土 地 | 197,070,990 | 197,070,990 | 0 |
| 建 物 | 917,471,932 | 955,756,891 | ▲ 38,284,959 |
| 設 備 等 | 99,387,049 | 114,670,506 | ▲ 15,283,457 |
| 備 品 | 14,833,238 | 18,780,145 | ▲ 3,946,907 |
| リース資産 | 5,392,850 | 7,676,345 | ▲ 2,283,495 |
| プログラムソフト等 | 15,415,397 | 19,529,159 | ▲ 4,113,762 |
| 敷金・保証金 | 4,243,000 | 4,243,000 | 0 |
| その他の資産 | 1,259,090 | 2,166,363 | ▲ 907,273 |
| その他の固定資産合計 | 1,255,073,546 | 1,319,893,399 | ▲ 64,819,853 |
| 固定資産合計 | 1,681,015,964 | 1,720,993,610 | ▲ 39,977,646 |
| 資産合計 | 1,846,223,496 | 1,882,579,341 | ▲ 36,355,845 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未 払 金 | 27,386,470 | 38,283,102 | ▲ 10,896,632 |
| 仮 受 金 | 91,040 | 227,490 | ▲ 136,450 |
| 預 り 金 | 4,145,543 | 2,207,335 | 1,938,208 |
| 未払法人税等 | 598,400 | 745,800 | ▲ 147,400 |
| リース債務 (短期) | 2,362,402 | 2,317,573 | 44,829 |
| 流動負債合計 | 34,583,855 | 43,781,300 | ▲ 9,197,445 |
| 2. 固定負債 | | | |
| 退職給付引当金 | 11,446,900 | 17,749,875 | ▲ 6,302,975 |
| リース債務 (長期) | 3,210,082 | 5,492,502 | ▲ 2,282,420 |
| 固定負債合計 | 14,656,982 | 23,242,377 | ▲ 8,585,395 |
| 負債合計 | 49,240,837 | 67,023,677 | ▲ 17,782,840 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 一般正味財産 | 1,796,982,659 | 1,815,555,664 | ▲ 18,573,005 |
| (うち基本財産への充当額) | (3,281,765) | (3,281,765) | 0 |
| (うち特定資産への充当額) | (411,213,753) | (380,068,571) | (31,145,182) |
| 正味財産合計 | 1,796,982,659 | 1,815,555,664 | ▲ 18,573,005 |
| 負債及び正味財産合計 | 1,846,223,496 | 1,882,579,341 | ▲ 36,355,845 |

監 査 報 告 書

一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会

代表理事 伊東 則昭 様

平成30年5月8日

監事 鈴木 正俊



監事 袖山 裕行



私は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からの職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以 上